



# スキルアップ補助金利用内容について

東北メディカル・メガバンク機構 予防医・学疫学部門 佐藤ゆき

## 目的

これまで関わってきた学童保健と母子保健に関する疫学研究から得られた成果のうち2課題を第63回日本小児保健協会学術集会にて発表することを第一目的とした。

また小児保健学分野の研究の動向や最新の知見の収集を行い専門家との意見交換や交流を深めることを第二目的とした。



## 旅程

2016/6/23 仙台→さいたま市  
2016/6/23-25 学会(会場:大宮ソニックシティ)  
2016/6/25 さいたま市→仙台



6/24 発表(地域医療セッション)



6/25 発表(発育セッション)

## 研究内容

### 演題1「学童の食生活習慣とその関連要因に関する疫学研究—パイロット調査の進捗結果—」

学校教育関係者の協力のもと学童の生活習慣等に関するパイロット調査を九州地方と東北地方の小学校9校で進めている。調査票は生活習慣を親子で振り返ることができかつ食育指導で学んだことを復習できる構成とし参加者と学校教育関係者への有用性と活用性を旨として開発してきた。学会では開発した調査票の内容に加えて多様化する子どもの生活環境が生活行動に与える影響についての背景要因分析の結果を発表。今回4,263名の児童中3,327名の保護者から参加意向が得られた調査データに基づき(参加率78.0%)単純集計を行った。食行動では朝食の頻度が平日(学校のある日)と長期休暇(夏休みなど)では明らかに異なる傾向が示され、長期休暇中に朝食を抜く子どもの割合は2倍多くなった。また、間食については夕食時間以降に食べる(夜食をたべる)子どもの割合が全体の6割であった。

項目	性別	年齢	割合
性別	男	10歳	50.0%
	女	10歳	50.0%
年齢	6歳	10歳	100.0%
	11歳	10歳	100.0%

### 演題2「4歳児の母親の心の状態と子どもへの関わり方との関連」

育児支援策が実装されているにもかかわらず育児困難感をもつ母親の割合は減少しているとは言えず、昨今では育児行為を介した子どもの健康への悪影響が報告されている。実態を総合的に調査した疫学データはまだ限られていることから本発表では全国5都道府県に在住する母子約3,000名を5年間追跡した調査データから母親の心の状態と育児行為について社会的背景要因を考慮した解析モデルによる結果を発表。母親の心の状態を不安と抑うつで評価し育児行為13項目との関連をロジスティック回帰分析にて検証した結果、母親の不安症状または抑うつ症状が高い場合、子どもの歯磨き仕上げをしないう傾向が2倍高くなっており、母親の心の状態はその他4つの育児行為とも統計的有意な関連を示した。母親のメンタルヘルスをケアすることは適切な育児行為をもたらす子どもの健やかな成長につながる可能性を示唆する結果であった。

項目	性別	年齢	割合
性別	男	4歳	50.0%
	女	4歳	50.0%
年齢	0歳	4歳	100.0%
	5歳	4歳	100.0%

## 本制度を利用することによって得られた効果

- 「学童の食生活習慣とその関連要因に関する疫学研究」については研究対象の拡大について共同研究の申し出があり、研究内容の充実に向けて研究者間のネットワークを広めることができた。今回、スキルアップ経費による支援を得たことで研究内容の進捗を含め成果を初めて公表することができ、その後継続調査のための外部資金2件の獲得に成功した。現在、学校関係者、栄養専門家、小児保健の専門家とともに研究継続中。
- 「4歳児の母親の心の状態と子どもへの関わり方との関連」の発表では行政の保健師や看護分野の専門家が積極的に質問と意見を寄せてくださり、さらなる研究成果公表のモチベーション向上につながった。
- 当学会誌である「小児保健」の編集員(小児栄養、母子保健分野)としての推薦を受け、6月より編集委員の活動を開始した。